

2020 年度第 8 回役員会議事要旨

日 時 2020 年 5 月 19 日（火） 16 : 30 ~ 18 : 10

場 所 Web 会議（Zoom による）

出席者 田中雄二郎学長、
渡邊守理事、若林則幸理事、大川淳理事、木村彰方理事、高田正雄理事、
鐘江康一郎理事

陪席者 今村聡子事務局長、内田信一医学部附属病院長、若林健二講師、
永田総務部長、米澤財務部長、高見澤財務部次長、白谷戦略企画課長、
高橋総務秘書課長、池田病院企画課長、矢澤医学部附属病院企画室長、
荒川統合研究機構事務長

○ 確認事項

1 2020 年度第 6 回役員会議事要旨について（案）

2020 年度第 6 回役員会議事要旨（案）について確認を行い、原案どおり承認された。

2 2020 年度第 7 回役員会（臨時）議事要旨について（案）

2020 年度第 7 回役員会（臨時）議事要旨（案）について確認を行い、原案どおり承認された。

○ 審議事項

1 COVID-19 への対応について（案）

大川理事から、資料 2 に基づき、5 月 12 日までの診療体制について説明があった。

続いて、若林健二講師から、今後の病棟計画（案）について説明があり、審議の結果、医学部附属病院 9 階を当面パンデミックフロアとして運用すること及び ER-HCU の工事案について承認された。

なお、高田理事から、COVID-19 への中長期的な対応として、Home ground 概念の緩和（共有病棟の増加）及びベッドコントロールの見直しによる病床の稼働率の向上が収益構造の改善に重要であるとの発言があった。

これを受けて大川理事から、共有病棟については、機能強化棟の完成により、柔軟な対応ができるようになるのではないかと、また、ベッドコントロールについては COVID-19 を契機にタスクチームを作る等、見直し計画を検討したい旨の発言があった。

続いて、渡邊理事から、資料 5 に基づき、ポストコロナ（教育・研究・診療の新しい方向性）について説明があった。

なお、高田理事及び鐘江理事から、人員を減らしたり診療科を削るといったことは難しいと思われるが、スリム化は必要であり、IT 化や効率化を推進することで実現可能になるのではとの意見があった。

これを受けて渡邊理事から、本学では COVID-19 問題以前より、本学で必ずやるべ

き事と本学でなくてもできる事を明らかにし、人員の適正配置をトップダウンで進めようと考えていた。従って、今回の COVID-19 問題後はこのスリム化は加速されると考えている旨の発言があった。

続いて、木村理事から、資料4に基づき、研究におけるポストコロナの方向性に関連して、研究資材をプラットフォームを作って管理していくべきとの発言があった。

続いて、若林理事から、資料3に基づき、教育におけるポストコロナの方向性について、遠隔授業の環境を整えることについては課題はなく、アクティブラーニングが加速することによって、学生の自主的な学習態度とその素養が増し、オンライン授業によって教育のリソースを全国で共通に用いたり、当該のクラス以外の学生の参加が可能になるシステムなどが進められるのではないかと発言があった。

○ その他

1 次回の役員会について

田中学長から、ポストコロナ（教育・研究・診療の新しい方向性）については、継続審議とする旨の発言があった。

以上